

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第2部門第6区分
【発行日】平成18年10月5日(2006.10.5)

【公表番号】特表2005-538909(P2005-538909A)
【公表日】平成17年12月22日(2005.12.22)
【年通号数】公開・登録公報2005-050
【出願番号】特願2004-538097(P2004-538097)
【国際特許分類】

B 6 5 D 19/40 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 19/40 A

【手続補正書】

【提出日】平成18年8月15日(2006.8.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

実質的L字形状の断面を形成する上部脚(4)及び下部脚(2)を備え、前記下部脚(2)は1つ以上の突部(3)を有する、載置用レッジ(1)において、

前記載置用レッジ(1)に1つ以上の固定手段(5)が一体成形されることを特徴とする、載置用レッジ(1)。

【請求項2】

前記固定手段はクリップ(5)の形状を有することを特徴とする、請求項1に記載の載置用レッジ(1)。

【請求項3】

前記クリップ(5)は、前記載置用レッジ(1)の前記上部脚(4)に一体化されるとともに、前記載置用レッジ(1)に固定されるフレーム(16)の形状と2つの折り曲げ可能部分(17)とを有し、該2つの折り曲げ可能部分(17)の各々は、前記フレーム(16)に固定される折り曲げ可能な1つの端部と前記載置用レッジ(1)に着脱可能に固定される1つの端部とを有することを特徴とする、請求項2に記載の載置用レッジ(1)。

【請求項4】

前記フレーム(16)から離れた前記折り曲げ可能部分(17)の端部は、前記載置用レッジ(1)に着脱可能に固定されることを特徴とする、請求項3に記載の載置用レッジ(1)。

【請求項5】

前記固定手段(5)が前記上部脚(4)の開口部(6)に設けられることと、4つの固定手段(5)が各載置用レッジ(1)に設けられることとの少なくとも一方を特徴とする、請求項1～4のいずれか1項に記載の載置用レッジ(1)。

【請求項6】

前記下部脚及び上部脚(2、4)が互いに対して僅かに傾斜していることと、少なくとも前記下部脚(2)の外側端部が僅かに上方に傾斜していることとの少なくとも一方を特徴とする、請求項1～5のいずれか1項に記載の載置用レッジ(1)。

【請求項7】

前記突部(3)は床又はその類似物の上に配置できるように下方に延び、前記突部(3)

）の少なくとも3つの側面は水平面に対して90°未満の角度（ α 、 β ）を形成することを特徴とする、請求項1～6のいずれか1項に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項8】

各突部（3）が有する、該突部に隣接する突部（3）に面する前記側面及び前記載置用レッジ（1）の短い端部に面する前記側面の前記角度（ α ）は、50°～70°の間であるとともに、前方に面する各突部（3）の前記側面すなわち前記下部脚（2）の他の端部に最も近い前記側面の前記角度（ β ）は、40°～60°の間であることを特徴とする、請求項7に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項9】

各突部（3）が有する、該突部に隣接する突部（3）に面する前記側面及び前記載置用レッジ（1）の短い端部に面する前記側面の前記角度（ α ）は、60°～70°の間であるとともに、前方に面する各突部（3）の前記側面すなわち前記下部脚（2）の他の端部に最も近い前記側面の前記角度（ β ）は、45°～55°の間であることを特徴とする、請求項8に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項10】

各突部（3）が有する、該突部に隣接する突部（3）に面する前記側面及び前記載置用レッジ（1）の短い端部に面する前記側面の前記角度（ α ）は66.4°であるとともに、前方に面する各突部（3）の前記側面すなわち前記下部脚（2）の他の端部に最も近い前記側面の前記角度（ β ）は52°であることを特徴とする、請求項9に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項11】

アダプタ（11、12）が各突部（3）上で受容されることを特徴とする、請求項1～10のいずれか1項に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項12】

前記アダプタは複数の突起（3）に配置されるアダプタセット（7）の形状を有し、該アダプタセット（7）はボード（9）及び2つ以上のアダプタ（8、11）を有することを特徴とする、請求項11に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項13】

1つの別個のアダプタ（12）が各突部（3）上に配置されることを特徴とする、請求項11に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項14】

各アダプタ（8、11、12）は、各突部（3）の開口部に固定式に接続されるための手段を有することを特徴とする、請求項8～13のいずれか1項に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項15】

前記アダプタ（8、11、12）の前記手段はペグ（10）であることを特徴とする、請求項13に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項16】

約759mmの長さを有し、前記上部脚（4）は約100mmの高さを有し、前記下部脚（2）は約150mmの幅を有し、各突部（3）は約45mmの高さを有することを特徴とする、請求項1～15のいずれか1項に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項17】

3つの突部（3）が前記載置用レッジ（1）に設けられ、該3つの突部（3）のうち1つは、他の2つの突部の間に配置されるとともに他の2つの突部より大きい底部を有することを特徴とする、請求項1～16のいずれか1項に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項18】

重量低減用の開口部（15）を有することを特徴とする、請求項1～17のいずれか1項に記載の載置用レッジ（1）。

【請求項19】

前記重量低減用の開口部は、前記載置用レッジ（1）の前記上部脚（4）に設けられる

ことを特徴とする、請求項 18 に記載の載置用レッジ (1)。

【請求項 20】

2 つ以上の請求項 1 ～ 19 のいずれか 1 項に記載の載置用レッジ (1) が、該載置用レッジ (1) 上の品物 (19) を固定するストラップ (14) とともに使用されることを特徴とする、単位荷物を形成するためのシステム。

【請求項 21】

エッジ保護具 (13) が、1 つ以上の前記ストラップ (14) と前記品物 (19) のエッジとの間に配置されて使用されることを特徴とする、請求項 20 に記載のシステム。

【請求項 22】

クリップ形状の固定手段が前記エッジ保護具 (13) に一体的に形成され、該固定手段は前記ストラップ (14) を固定することを特徴とする、請求項 21 に記載のシステム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

突部 3 は、複数の載置用レッジ 1 の積み重ねを補助するために、傾斜した側面を有する。載置用レッジ 1 の上部脚 4 と同一面内に配置された各突部 3 の側面は、通常は傾斜していない。隣接する突部 3 及び載置用レッジ 1 の短い端部に面する各突部 3 の側面は、水平面に関して角度 α の傾斜を有する。角度 α は通常 $50^\circ \sim 70^\circ$ の間であり、好ましくは $60^\circ \sim 70^\circ$ の間であり、最も好ましくは 66.4° である。前方に面する各突部 3 の側面、すなわち下部脚 2 の他の端部に最も近い側面は、水平面に関して角度 β の傾斜を有する。角度 β は通常 $40^\circ \sim 60^\circ$ の間であり、好ましくは $45^\circ \sim 55^\circ$ の間であり、最も好ましくは 52° である。中央に配置された突部 3 の寸法は通常、他の突部 3 の寸法よりもいくらか大きい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

載置用レッジ 1 及びアダプタ 7、10 は通常、不使用時には別個に保管され、すなわちアダプタ 7、10 は載置用レッジ 1 に取付けられない。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

使用時は、少なくとも 2 つの載置用レッジ 1 が品物 19 の底部に配置される。2 つの載置用レッジ 1 は、品物 19 の互いに反対側に配置される。載置用レッジ 1 によって形成される単位荷物の種々の形態が図 4 に示される。ストラップ 14 は、クリップ 5 に隣接する開口部 6 と、上部脚 4 のクリップ 5 のフレーム 16 との双方を通して引かれる。この種のクリップ 5 については通常、ストラップ 14 が強く引かれるに従って締め付けが強固になる。